

第 15 回品質交流会 資生堂鎌倉工場の事例紹介と工場見学

異業種より改善のヒントを見つけることを主眼に品質交流会を開催しているが、今回は資生堂鎌倉工場の協力を得て実施した（参加 40 名）。

この工場は昭和 34 年に設立され、資生堂のマザー工場として国内や海外生産拠点の手本となっている。全世界に供給する口紅を中心に、約 3,000 品種の化粧品を、年間約 8,000 万個生産している多品種少量生産の工場である。

工場のスローガンは、「良い品を良い人で」お客様の喜びを私たちの喜びに”であり、周到的な準備と丁寧な受け入れを戴き、お客様本位が実践されていることが実感された。

工場は古い建物にもかかわらず、化粧品が栄養素を多く含むことから、カビや菌の混入を防ぐため、食品工場以上のクリーンな衛生管理が実施されていた。

改善活動は、ムリムラムダを削減する「知恵椿制度」と工場内の小集団活動、機械化やしくみの変更による改善の 2 本立てで行われている。「知恵椿制度」は 2006 年より新たに本社・販売店（全従業員の約 80%）を巻き込んだ全社的活動として展開されている。また、仕組みの変更により在庫を圧縮し、鮮度の高い製品が届けられる努力などが実施されている。

一方、製品品質は工程内で品質を確保し、検査で確認する方針で、原料検査、薬剤定量検査、微生物検査、官能検査が実施されている。

特に化粧品は、色、香り、塗り心地など官能に頼る部分が多く、検査員には十分な教育が実施されていた。最後に、参加者も色彩弁別器による適正試験を体験し見学を終了した。



レセプションエリア



受入れ挨拶をする矢後管理部長



色彩弁別器による適正試験に挑戦する参加者